

授業科目名	研究特論科目
授業科目群	展開・先端科目
標準学年	3年次
必修・選択の区別	選択
開講学期	前期
開講曜日・時限	時間外
単位数	2単位
担当教員名	法科大学院のみなし専任を除く専任教員(受講者の希望を聴取したうえで決定する)
授業の目的	実務に対する理論的な観点からする批判を可能にし、また、新しい問題に対する法創造を可能にするために、個別論文指導を行う。法学府博士後期課程進学への導入教育でもある。
履修条件	3年次に限る。
到達目標	カリキュラムマップ、到達目標科目対応表及び学修ロードマップを参照のこと。
授業の概要	学生の履修希望に応じて、関連する科目を専攻する教員が個別論文指導を行なう。下記の「授業計画」「授業の進め方」「試験・成績評価等」は、1つのモデルであり、詳細は担当教員から別途指示する。
授業計画	<p>第1回 はじめに—本授業の趣旨、進行方法、方針等に関する説明</p> <p>第2回 論文の書き方に関する概説</p> <p>第3回 法律文献探索法</p> <p>第4回 関心の課題に関する自由討論</p> <p>第5回 課題に関する判例分析</p> <p>第6回 課題に関する主要法律文献の動向調査(邦語文献)</p> <p>第7回 課題に関する主要法律文献の動向調査(外国語文献(翻訳を含む))</p> <p>第8回 課題に関する討論及び仮説の提示</p> <p>第9回 課題に関する構想発表及び目次設定</p> <p>第10回 実際に書いてみる(レジュメの作成)と講評</p> <p>第11回 実際に書いてみる(本文)と講評</p> <p>第12回 実際に書いてみる(本文)と講評</p> <p>第13回 実際に書いてみる(脚注)と講評</p> <p>第14回 論文発表と講評</p> <p>第15回 本授業のまとめ</p>
授業の進め方	受講生の問題関心に応じ、小論文作成を素材に、担当教員が個別に論文作成法を指導する。
教科書及び参考図書等	適宜指示する。
試験・成績評価等	各回の個別報告と論文(1万字以上)による。個別報告30%、論文70%で成績査定する。
事前学習	適宜指示する。

課題レポート等	各回の個別報告のほか、論文を提出しなければならない。
オフィスアワー	担当教員のオフィスアワーを参照すること。
その他	事前に受講調査を行う。後日の法科大学院事務室からの連絡に注意すること。受講生の希望と専門分野を勘案して、受講者毎に担当教員を教授会が決定する。